

昨年3月29日～31日にかけて、市指定無形民俗文化財の香良洲お木曳き行事が行われました。あれから1年が経ち、4月に新しい本殿が造られる香良洲神社の奥には、「シャシャンボ（シャシャンボ）」の木があります。

シャシャンボは、ツツジ科スノキ属の常緑小高木で、別名「シャセンボ」ともいい、この地方の方言では、「ワクラ」「ワクラバ」などと呼ばれています。関東南部以西の本州、四国、九州、沖縄や台湾、中国、インドシナなどに分布していて、日本では、沿岸地域の痩せた山や乾燥した場所にも、よく耐えて生育しています。シャシャンボは庭木によく使われる木で、7月ごろ、白色のつぼ状の花が下向きに咲き、果実は秋に小さい黒紫色に熟して甘酸っぱくなり、おいしく食べるこ

とができます。同属のブルーベリー類と同じくアントシアニンを多く含みます。スノキ属の植物は小柄なものが多い中、境内にある10本余りのシャシャンボのうち1本は、幹周り116cm、高さが15m50cmもあり、県内でも例を見ない立派な樹木に生育しています。シャシャンボは、大きくなる前に腐っていくことが多いのですが、この木は、腐って空洞になっっている部分もなく、健康に育っています。

この木はこれまで「三重の巨樹・古木」（三重県緑化推進協会発行）などの資料に挙げられておらず、今回本殿を新しくする時に、新たに発見されました。人が普段立ち入ることのなかった場所だったために、ここまで育ったのかもしれない。香良洲地域ではこの他にも、雲出

川堤防道路を香海中学校方面に向かうと運動場側に、幹周り215cmの「ロブスターユーカリ」という珍しい木が見られます。

春の陽気の中で、香良洲神社や香良洲歴史資料館をはじめ、シャシャンボやロブスターユーカリ、香良洲公園などの自然を楽しみが

ら、香良洲地域を散策してみたいかでしょうか。

（「広報津」平成26年3月16日号）



香海中学校のロブスターユーカリ



香良洲神社のシャシャンボ